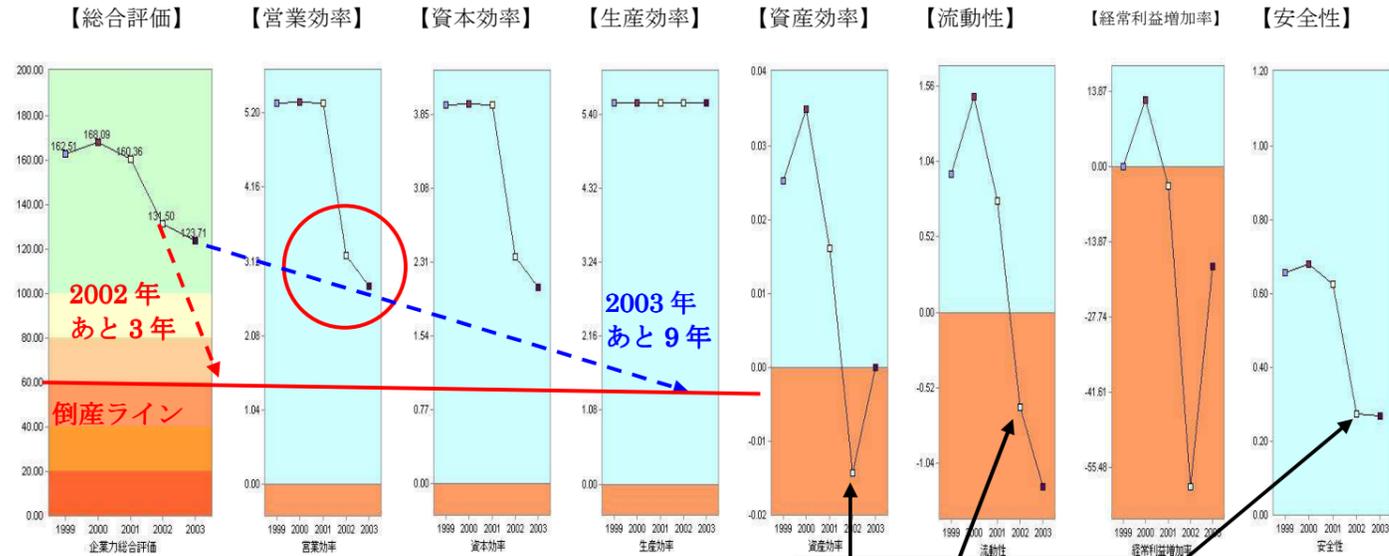
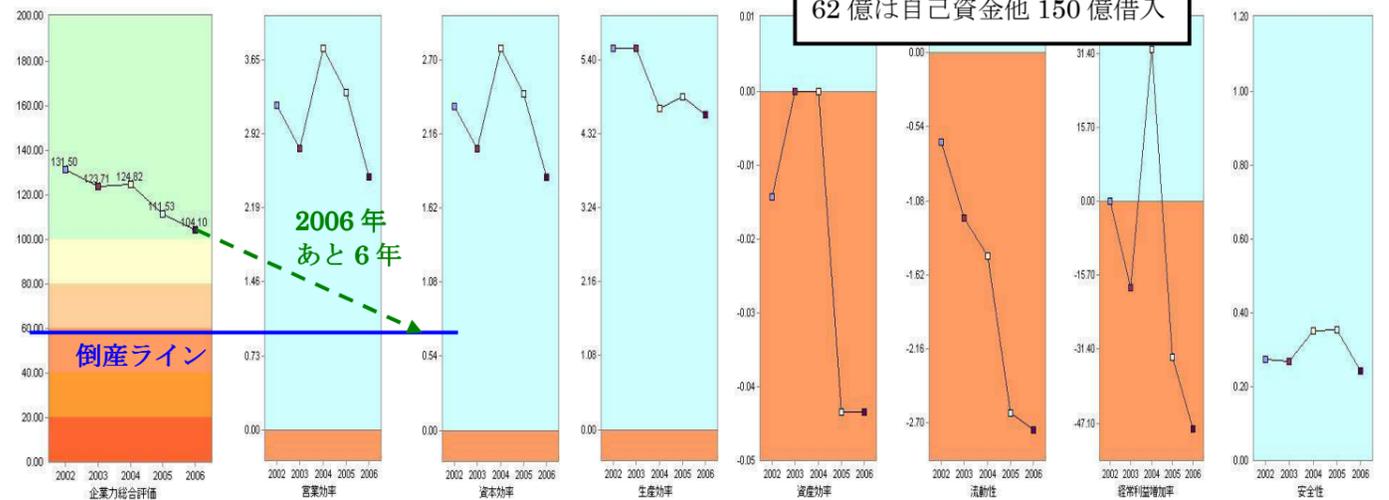


今回は、ダンス系音楽で大手レコード会社へと急成長した、エイベックス・グループ・ホールディングス (株) の診断を見てみよう。

エイベックス・グループ・ホールディングス (株) は、当初は松浦勝人 (MAX 松浦) 氏らによって立ち上げられた輸入レコードの卸会社でした。1989 年より依田巽氏を経営者として迎え入れ、松浦氏は小室哲哉氏とともにダンスと歌を融合させた音楽を 1990 年に急成長させました。1990 年代後半から 2000 年代前半にかけては、TRF や安室奈美恵さんが基礎を造り、ELT を主力とし、レコード業界での一大勢力を築き上げました。しかし、2000 年代に入ると CD 市場の縮小などもあり、急成長に急ブレーキがかかりマイナス成長に転じます。2001 年に天井打ちしていた営業効率が急落 (○) しています。2001 年に悪化成り行き倍率が 13 年、**2002 年に悪化成り行き倍率が 3 年**、**2003 年に悪化成り行き倍率が 9 年**、**2006 年に悪化成り行き倍率あと 6 年**と警告が出ています。



2002 年 3 月本社社屋
212 億円で購入
62 億は自己資金他 150 億借入

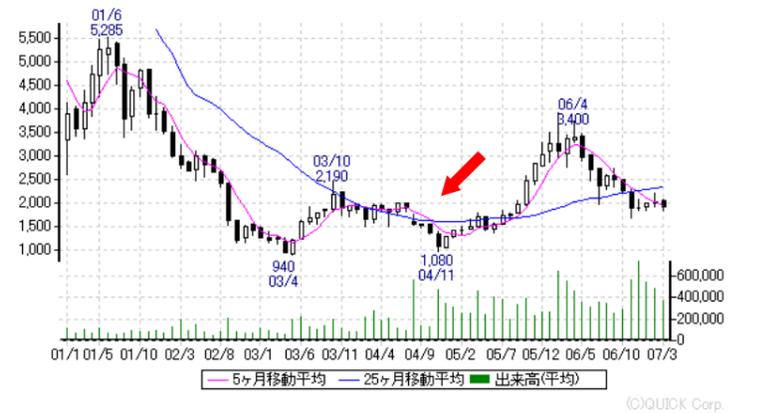


会長兼社長の依田氏は、2004 年からは日本レコード協会 (RIAJ) 会長、日本映像ソフト協会 (JVA) 会長を兼任しました。かつては山水電気の取締役を務めるなど音楽関連の経営畑の仕事の続けてきたため、業界、政界や海外への強い影響力を持っていると言われていました。しかしながら、**創業者である松浦との経営方針の対立が深刻化**、松浦が退社したことで、**看板歌手浜崎あゆみさんを筆頭とする所属歌手が移籍の動きを見せ**、**株価が暴落**しました。それを受け **2004 年 8 月 3 日に依田は会長兼社長を辞任、名誉会長となり**、これにより、松浦はエイベックスに復帰しました。

	2002 年 3 月期	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期
企業力総合評価】 (60 以下は倒産)	131.50	123.71	124.82	111.53	104.10
増加総合評価	*****	△7.79	1.11	△13.28	△7.43
総合評価-60	71.50	63.71	64.82	51.53	44.10
悪化成り行き倍率	*****	9	*****	4	6

流動負債合計	26,931,000,000	24,512,000,000	22,590,000,000	22,161,000,000	28,995,000,000
流動資産合計	26,311,000,000	19,534,000,000	16,132,000,000	4,760,000,000	4,457,000,000
流動比率	97.70	79.69	71.41	21.48	15.37
当座資産	17,361,000,000	11,042,000,000	7,092,000,000	3,076,000,000	3,085,000,000
当座比率	64.46	45.05	31.39	13.88	10.64
現金預金	8,273,000,000	3,844,000,000	2,902,000,000	2,926,000,000	2,683,000,000
現金預金比率	30.72	15.68	12.85	13.20	9.25

創業者松浦氏と依田氏との対立で環境への対応が遅れ総合評価が下落の一途を辿ってきました。会社で一番大切な商品である歌手の移籍問題まで持ち上がって株価まで暴落させてしまいました。営業効率の悪化トレンドに加えて流動性は 6 期連続悪化しています。



まとめ
役員間でのトラブルがある会社は企業力総合評価が下がり続けます。会社は人の力を結集し、同じ方向に向かせるための組織であることを忘れてはなりません。

編集後記 エイベックス内でのトラブル、考えただけで暗くなります。 (—_—)!! 文責 JY
〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-3-12 エイディビル 12 階 株式会社 SPLendid21
tel 06-6265-8621 fax 06-4964-4164 ✉ info@sp-21.com URL <http://www.sp-21.com>